

2-3 日本語教育学

研究・教育活動の概要と特色

本専攻分野では、日本語教育学の教育・研究範囲を日本社会や文化、日本人の意識などまでも含めた広い文脈で捉えている。以下に教育・研究活動の概要とその特色を概括する。

第1の特色は、学部・大学院それぞれに、学生自身がコースデザインから日本語の授業担当、報告書作成までを行う教育実習が用意されていることである。

第2の特色は、日本語教師養成に関わる研究、特に実習における実習生の態度変容や、現場経験の多寡が教師の授業活動に対する意識やイメージにどのような影響を与えるかなどについての研究である。日本語教育における研究事例がまだ少ない時期から先駆的に取り組んできている。

第3の特色は、日本語が用いられる社会的背景を意識して、社会心理学や社会学など日本語教育学以外の専門を持つ教員が所属していることである。現代日本人のジェンダー、キャリア発達や生活時間に関する実証的研究を行っている。

第4の特色は、質問紙法や調査的面接法、統計やプレゼンテーションのスキルなどについての実践的な講義も学部・大学院で提供していることである。

I 組織

1 教員数（2009年9月末現在）

教授：1

准教授：1

講師：1

助教：1

教授：才田いずみ

准教授：名嶋義直

講師：田中重人

助教：呉正培

2 在学生数（2009年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
30	2	11	0	0

3 修了生・卒業生数（2005～2009年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
05	14	3	1
06	8	3	1
07	10	5	1
08	11	3	2
09	0	0	0
計	43	14	5

* 2009年度は、9月末までの数字

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2005～2009年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
05	0	0	0
06	1	0	1
07	1	0	1
08	1	0	1
09	0	0	0
計	3	0	3

* 2009年度は、9月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

藤田裕子、2006年度、『外国語学習スタイルの異文化間比較のための基礎的研究—韓国人・中国人大学生日本語学習者を中心に—』

審査委員：教授・才田いずみ（主査）、教授・鈴木淳子、教授・行場次朗、
助教授・名嶋義直、助教授・福島悦子、助教授・助川泰彦、講師・田中重人
呉 正培、2007年度、『韓国人大学生の日本人イメージに関する社会心理学的研究—日本語学習の影響を中心に—』

審査委員：教授・鈴木淳子（主査）、教授・才田いずみ、教授・大淵憲一、
准教授・名嶋義直、准教授・助川泰彦、講師・田中重人

楊 帆、2008年度、『日本語授業における誤用訂正に関する研究—中国の大学教室の訂正実態と授業参加者の意識—』

審査委員：教授・才田いずみ（主査）、教授・鈴木淳子、教授・助川泰彦、
准教授・名嶋義直、准教授・甲田直美、講師・田中重人

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
05	3	2	0	2	7
06	2	1	0	0	3
07	0	0	0	1	1
08	1	0	0	0	1
09	0	0	0	1	1
計	6	3	0	4	13

*2009年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
05	2	3	1	0	6
06	3	3	0	0	6
07	0	0	1	0	1
08	1	0	0	2	3
09	1	0	2	0	3
計	7	6	4	2	19

*2009年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

- 呉 正培 「韓国人大学生の日本人に対するステレオタイプ研究—日本語学習との関係—」『文化』第69巻 第1・2号, 2005年.
- 呉 正培 「韓国人大学生の日本人ステレオタイプに関する質的研究—日本語学習の影響を中心として—」『日語日文学研究』59輯 1巻, 韓国日語日文学会, 2006年.
- 呉 正培 「日本語学習者の日本人イメージにみられる特徴とその形成要因—韓国の大学における学習者と非学習者の比較—」『世界の日本語教育』第18号, 国際交流基金, 2008年.
- 栗原通世 「中国語北方方言話者の日本語長音と短音の産出について」『言語科学論集』第9号, 東北大学大学院文学研究科言語科学専攻, 2005年.
- 遠藤清佳・栗原通世・助川泰彦 「定住外国人への保健・医療支援の現状—保健・医療通訳ボランティアの視点から—」(共同)『多言語社会と外国人の学習支援』慶應義塾大学出版会, 2005年.
- トムソン木下千尋・福井なぎさ・島崎 薫 「初級コースにおけるアクティブラーニングの実践—インターアクションテストの考察—」(共同)『学習者主体の日本語教育—オーストラリアの実践研究—』, ココ出版, 2009年.
- 楊 帆 「日本語教室における誤用への教師の訂正/非訂正と授業参加者の意識」, 『言語科学論集』第9号, 東北大学大学院文学研究科言語科学専攻, 2005年.
- 楊 帆 「教室活動に見る誤用訂正と授業参加者の意識」『第三回大学日本語教育国際シンポジウム論文集』, 西安交通大学, 2006年.
- 楊 帆 「誤用訂正に対する意識—中国人日本語学習者と中国人教師の場合—」『小出記念日本語教育研究会論文集』第14号, 小出記念日本語教育研究会, 2006年.
- 楊帆・高橋わかな・吉武あさみ・助川泰彦 「仙台市公立保育所における日本語を母語としない子どもたちの現状と課題」(共同)『多言語社会と外国人の学習支援』慶應義塾大学出版会, 2005年.

(2) 口頭発表

- 梅木俊輔 「相づち使用とターン管理に関する一考察—接触場面の場合—」, 第7回日本語教育研究集会, 名古屋大学, 2009年8月4日.

- エミ・インダー・プリヤンティ 「在日インドネシア人研修生と日本人の職場でのコミュニケーション問題」, 第1回松島日本語教育研究集会, 松島町中央公民館, 2009年7月20日.
- 呉 正培 「韓国人大学生の日本人ステレオタイプ研究—社会心理学的影響要因の検討—」, 日本社会心理学会 第46回大会, 関西学院大学, 2005年9月24日.
- 呉 正培 「韓国大学生の日本人に対するステレオタイプ—日本語学習の影響を中心として—」, 韓国日語日文学会 2006年度夏季国際学術大会, 清州大学校, 2006年6月17日.
- 呉 正培 「質的調査による日本人ステレオタイプの内容の検討—韓国人大学生の場合—」, 韓国日本学会第74回国際学術大会, 建国大学校, 2007年2月10日.
- 栗原通世 「中国語北方方言話者の日本語長音の知覚と産出の関係」, 2005年度日本語教育学会春季大会, 横浜国立大学, 2005年5月22日.
- 栗原通世・助川泰彦 「母語別に見た日本語学習者による母音長の範疇知覚」(共同), Fifth International Conference on Practical Linguistics of Japanese, San Francisco State University, 2006年3月4日.
- 佐藤雅子・鈴木衣今子 「ベトナム・ホーチミン市における日本語教育専門家・日本語教育指導助手と現地日本語教師との関係—教師協同のためのビリーフス・チェックシート試案—」(共同), 日本語教育学会実践研究フォーラム, 早稲田大学東伏見キャンパス, 2007年8月4日.
- 島崎 薫 「日本語教育における学習環境への着目—アクティブラーニングの提案—」, 2009年度日本語教育国際研究大会、ニューサウスウェールズ大学(シドニー)、2009年7月15日.
- 仁科浩美 「口頭テストにおける日本語教師の評価と発話データとの関係—研究留学生を対象とした形成的評価を例に—」, 第26回日本語教育方法研究会, 国立国語研究所, 2006年3月18日.
- 黄 家琦 「台湾普通高校の日本語教育の実情—9人の台湾人日本語教師のインタビューを通して—」, 第27回日本語教育方法研究会, 仙台国際センター, 2006年9月23日.
- 森亜佐美 「外国にルーツを持つ児童・生徒の教育支援へのニーズ—山形県村山地域での調査をもとに—」, 第27回日本語教育方法研究会, 仙台国際センター, 2006年9月23日.

- 梁 賢俊 「韓国人学習者の漢語系形容動詞の習得に関する研究—中国人学習者との比較を中心に—」，2005年度日本語教育学会秋季大会，金沢大学，2005年10月9日。
- 楊 惠婷 「日本語学習者の終助詞に対する理解について—『よ』『ね』『よね』の場合—」，第二回松島日本語教室まつり，松島中央公民館，2009年3月1日。
- 楊 帆 「教室活動に見る誤用訂正と授業参加者の意識」，第三回大学日本語教育国際シンポジウム，中国・西安交通大学，2005年8月2日。
- 楊 帆 「誤用訂正の方法と授業参加者の意識」，日本語教育国際研究大会 ICJLE2006，コロンビア大学，2006年8月6日。
- 楊 帆 「誤用訂正のタイミングと授業参加者の意識」，第27回日本語教育方法研究会，仙台国際センター，2006年9月23日。
- 楊 帆 「誤用訂正に対する意識の学年間比較—中国の大学の日本語教室の場合—」，2008年日本語教育国際研究大会，釜山外国語大学校（韓国），2008年7月13日。

3 大学院生・学部生等の受賞状況

ヤマモト・ルシア・エミコ（専門研究員）「国際労働移動が家族関係にもたらす影響—性別役割の研究を中心に—」平成19年度東北大学男女共同参画奨励賞「沢柳賞」プロジェクト部門 特別賞 2007年11月

4 日本学術振興会研究員採択状況

2004年度～2005年度 (PD) 外国人特別研究員 受け入れ 計1名

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2006年度 学部 計2名 カリフォルニア大学サンタクルーズ校（アメリカ合衆国），全北大学校（韓国）

2007年度 学部 計5名 カリフォルニア大学サンタバーバラ校（アメリカ合衆国），ニューサウスウェルズ大学（オーストラリア），ルンド大学（スウェーデン）

5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
05	3	3	6
06	6	0	6
07	3	2	5
08	7	4	11
09	5	5	10
計	24	14	38

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
05	1	0	1
06	3	0	3
07	3	0	3
08	2	0	2
09	3	0	3
計	12	0	12

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

溝井益実 マレーシア・Universiti Industri Selangor 日本語教師（日本マレーシア
高等教育大学連合プログラム；Japanese Associate Degree Program）2005 年度

森川舞子 韓国・建陽大学校日本語文化学科専任講師 2005 年度

猪狩哲郎 韓国・釜慶大学校人文社会科学大学 日語日文学部 外国人講義招聘
教授 2005 年度

内山潤 金城学院大学文学部 言語文化学科 講師 2005 年度

佐々木良造 マレーシア・Universiti Industri Selangor 日本語教師（日本マレーシ
ア高等教育大学連合プログラム；Japanese Associate Degree Program）2005 年度

仁科浩美 山形大学留学生センター 講師 2006 年度

廖 程 中国・西安外国語大学東方語言文化学院専任講師 2006 年度

舟森久美子 ノボシビルスク国立大学外国語学部 日本語教師 2007 年度

栗原通世 国士舘大学 21 世紀アジア学部 講師 2008 年度

楊 帆 山形大学国際センター 講師 2008 年度

7-2 専攻分野出身の高度職業人

日本語教師 5 名，青年海外協力隊日本語教師 5 名，国際交流基金海外派遣
日本語教育専門家 1 名，保育園・中学校・高等学校教諭各 1 名，システムエン
ジニア 2 名，ジャーナリスト 2 名，出版社社員 1 名

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

釜慶大学校（韓国）助教授	金 永賛	2005 年 7 月 26 日～8 月 2 日
釜慶大学校（韓国）教授	孫 東周	2006 年 7 月 29 日～8 月 2 日
釜慶大学校（韓国）教授	金 永賛	2006 年 8 月 18 日～8 月 25 日
釜慶大学校（韓国）教授	Jang Yun-seok	2007 年 7 月 28 日～8 月 3 日
釜慶大学校（韓国）教授	金 永賛	2008 年 7 月 26 日～8 月 1 日

10 刊行物

『言語科学論集』（専門分野の論集），国語学・言語学と共同，1997 年より毎
年刊行

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2005 年度

「言語研究者・言語教育者養成プログラム 第 1 回海外日本語教育事情国際
シンポジウム：求められる若手日本語教師像」（「魅力ある大学院教育」
イニシアティブ）開催，2005 年 2 月 18 日。

2006 年度

日本語教育方法研究会事務局

第 27 回日本語教育方法研究会（大会）開催，2006 年 9 月 23 日。

「言語研究者・言語教育者養成プログラム 第 2 回海外日本語教育事情国際
シンポジウム：求められる日本語教師像」（「魅力ある大学院教育」イニ
シアティブ）開催，2006 年 9 月 24 日。

言語研究者・言語教育者養成プログラム 講演会，2006 年 12 月 18 日

言語研究者・言語教育者養成プログラム 特別講演会「韓国語・中国語・日本語—
対照言語研究と教育—」（「魅力ある大学院教育」イニシアティブ）開催，2007
年1月27日

言語研究者・言語教育者養成プログラム 国際シンポジウム「日本語研究の現在」
（「魅力ある大学院教育」イニシアティブ）開催，2007年2月18日．

2007年度

日本理論心理学会第53回大会事務局

日本語教育方法研究会事務局

2008年度

日本語教育方法研究会事務局

日本語教育講演会「音声教育の方法」，2008年9月23日

1.2 専攻分野主催の研究会等活動状況

2005年度

言語研究者・言語教育者養成プログラム第1回活動報告会，11月

言語研究者・言語教育者養成プログラム第2回活動報告会，12月

言語研究者・言語教育者養成プログラム第3回活動報告会，12月

言語研究者・言語教育者養成プログラム第4回活動報告会，1月

2006年度

言語研究者・言語教育者養成プログラム第5回活動報告会，4月

言語研究者・言語教育者養成プログラム第6回活動報告会，6月

言語研究者・言語教育者養成プログラム第7回活動報告会，7月

言語研究者・言語教育者養成プログラム第1回研究会，7月

言語研究者・言語教育者養成プログラム第8回活動報告会，10月

言語研究者・言語教育者養成プログラム第9回活動報告会，10月

言語研究者・言語教育者養成プログラム第10回活動報告会，11月

言語研究者・言語教育者養成プログラム 第1回特別講義，11月

言語研究者・言語教育者養成プログラム 第2回特別講義，11月

言語研究者・言語教育者養成プログラム 第3回特別講義，12月

言語研究者・言語教育者養成プログラム第11回活動報告会，2007年1月

言語研究者・言語教育者養成プログラム第12回活動報告会，1月

言語研究者・言語教育者養成プログラム第13回活動報告会，3月

2008 年度

日本語教育研究会「音声教育の方法」講演会，2008 年 9 月 23 日

1 3 組織としての研究・教育活動に関する過去 5 年間の自己点検と評価

2006-2007 年度の教授 2 名、准教授 1 名、講師 1 名、助教 1 名の計 5 名という学部の教育・研究体制が、助教の転出で、2008 年度はスタッフ 4 名とポストクの研究助手 1 名という形になり、2009 年度には助教ポストは得たものの、鈴木淳子教授が他大学に転出して大きな打撃を受けた。しかし、呉正培助教が、大いに学生指導の面で活躍してくれていることと、人的リソースが減ったことへの対応策として、研究室運営のあり方を見直し、学生・院生へのオリエンテーションを充実させて情報量を増やしたことや、指導体制に院生の希望を取り入れたことなどから、マイナスは最小限に食い止めることができているのではないかと考えている。大学院は、2004 年度からスタートした協力教員 2 名の受け入れが、2007 年度からは助川泰彦准教授（国際交流センター、2008 年 8 月から教授）1 名になったものの、相互の連携がよく取れるようになって、質的にも量的にも学部よりも充実した指導体制となっている。

また、研究生希望者などの大学院生予備軍への対応を、時期で区切って、ある程度合理化するなど、教員の学外者対応の負担軽減も試みている。

日本語教育学研究室では、開設以来一貫して教育・研究環境の整備に力を入れている。約 20 台のパーソナルコンピュータを設置し、学生の研究・教育用に開放している。各コンピュータには最新の統計・ワープロ・表計算・プレゼンテーション（プロジェクター使用）・データベース・データ解析などのソフトがインストールされ、調査・実験データの分析、論文執筆や発表練習に十分な環境が整備されている。また、授業では、文献データベースサイトに関する情報を積極的に提供し、利用目的に即したサイト選択が効率よくできるよう指導している。この他、研究室内の資料室には約 3,000 部の専門書と約 2,000 部の研究雑誌・紀要・報告書等を蔵している。また、音声研究用の機材・分析装置や日本語の実習授業用の授業観察装置やビデオカメラ、ビデオデッキ等も、互換性に留意しつつ機種の更新を行い、学生の便宜を図っている。

学生からの相談にはきめ細かく応じるようにしており、スタッフ全員が卒業論文の個別指導などの対応を随時柔軟に行っている。卒業論文については、年間 4 回程度の構想発表・進捗状況報告の機会を設け、円滑に論文作成が進むよう配慮しているほか、2009 年度は夏休み直前に 3 名の教員と学生 1 名の 4 人で進捗状況と今後の

進め方について話し合う個別面談を実施し、研究支援と指導を充実させた。

大学院教育においても、各学生の研究相談に随時個別に対応している。週1回の課題研究の時間には、全大学院生に順番に各自の研究内容について発表させている。発表時間を制限して短時間に内容を要領よくまとめる訓練を行うほか、指定討論者や質疑セッションの司会なども順に務めさせ、学会大会や国際会議等での発表を意識させるようにしている。教員は、課題研究後にもさまざまな視点からの指導や助言を与えるようにしている。また、講演会やシンポジウムを開催するなど、院生に刺激を与えると同時に、日本語教育学の研究成果を蓄積することに努めている。

日本語教育学は、現場に立つことが重要性を持つ領域であるので、実習をはじめ実地調査や見学など、学生・院生に現場を踏む機会を与えることにも努力している。2005、2006年度は魅力ある大学院教育イニシアティブプログラムを活用し、大学院生の国内外での実地見学・調査・研究・学会発表を積極的に行わせた。同プログラムによって、ほとんどのスタッフが海外の教育拠点を訪れて現地の日本語教育学専門家との交流を深め、卒業生・修了生の新たな就職可能性を拓くとともに、大学院での実習の対象者を複数の国から受け入れるルートを拡大した。これにより、海外在住の卒業生・修了生とのネットワークをより密なものにすることもできた。2007年度は予算的な裏付けはなくなったものの、こうして培ったネットワークを活用し、実習の対象者を例年の韓国に加え、タイからも2名得ることができた。2009年度は（独）国際交流基金の海外日本語インターンシッププログラム業務提携により、2月と3月に学部学生と大学院生をタイ・韓国・インドネシアに派遣する予定である。

スタッフは論文や著書などの出版、研究発表、講演などの研究活動を活発に行うだけでなく、学会役員、ジャーナル編集委員、大会開催委員などを担当して学会にも貢献している。これに加えて、田中重人講師は法学研究科の21世紀COEプログラム運営委員、グローバルCOEプログラム運営委員として活躍している。鈴木淳子教授も在職中、東北大学文学研究科の21世紀COEプログラム運営委員、グローバルCOEプログラム運営幹事を務めた。

Ⅲ 教員の研究活動（2005年度～2009年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

才田いずみ・栗原通世・徐智允・川添良幸・高橋亜紀子・小河原義朗・内山潤・井口寧 「ウェブ版ロールプレイ練習のデザインに関する評価」（共同）『日本語教育方法研究会誌』vol.12, No.2, pp. 8-9, 2005.

高橋亜紀子・小河原義朗・才田いずみ・井口寧・堀井洋・川添良幸 「システム・エンジニア向け日本語学習コースウェアの開発」 (共同), 『日本語教育方法研究会誌』 vol.12, No.2, pp. 24-25, 2005.

Yasushi Inoguchi, Akiko Takahashi, Yoshiro Ogawara and Izumi Saita (2006)

‘Evaluation on Interactive e-Learning Japanese Courseware for System Engineers’.

(共同) In W.M. Chan, K.N. Chin, P. Martin-Lau, M. Nagami, T. Suthiwan & M.

Suzuki (eds.) *CLaSIC 2006: Processes and Process-Oriented in Foreign*

Language Teaching and Learning. CD-ROM. 360-368, 2006.

才田いずみ 「日本語教育のこれからの展開—遠隔日本語学習支援—」 『フェリス女学院大学 日本語教育学論究』 第 2 号, フェリス女学院大学日本語教育運営委員会, pp. 3-15, 2006.

才田いずみ・井口寧・高橋亜紀子・小河原義朗 「遠隔日本語学習とテレビ会議」 (共同) Satoru Shinagawa (ed.) *CASTEL-J in Hawaii 2007 Proceedings*. CD-ROM. pp. 67-70. 2007.

才田いずみ「実習生の授業イメージと教師役割観」藤原雅憲・西村よしみ・堀恵子・内山潤・才田いずみ(編)『大学における日本語教育の構築と展開—大坪一夫教授古稀記念論文集—』, ひつじ書房, pp.199-219, 2007.

加藤由香里・才田いずみ 「上級日本語読解コンテンツの開発—専門教育との連携を志向するeラーニング—」 (共同), 日本教育工学会第 23 回大会講演論文集, pp. 857-858, 2007.

才田いずみ「日本語教育実習生についての実習生の受けとめ」『日本語教育学世界大会 2008 《第 7 回日本語教育国際研究大会》 予稿集』 第 3 分冊, pp. 7-10, 2008.

才田いずみ「日本語教育学実習と実習生の授業時の意識—日本人学生と留学生を比較して—」内藤哲雄・井上孝代・伊藤武彦・岸太一 (編) 『PAC 分析研究・実践集 1』ナカニシヤ出版. pp.53-69. 2008.

Izumi SAITA, A. Takahashi, Y. Ogawara, Y. Inoguchi, and M. Kurihara. “Multimedia and Learner Awareness-raising in regard to Japanese Prosody”. (共同) *Proceedings of the Third CLS International Conference CLaSIC2008*. CD-ROM. pp.481-486, 2008.

高橋亜紀子・才田いずみ・小河原義朗・井口寧「システムエンジニアを対象とした遠隔日本語学習コースウェアの開発」 (共同), 日本教育工学会研究会報告集 08-5. pp. 215-220, 2008.

- 鈴木淳子 「家族とジェンダー」潮村公弘・福島治（編）『社会心理学概説』
北大路書房，pp.148-156，2007.
- SUZUKI Atsuko Introduction: micro-macro Dynamics. In Atsuko Suzuki (ed.), *Gender and career in Japan*. Melbourne, Victoria: Trans Pacific Press. pp.1-32. 2007.
- 鈴木淳子 「キャリア・ジェンダーと不平等」原 純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一（編）
『社会階層と不平等』，放送大学教育振興会，pp.177-191. 2008.
- 鈴木淳子 「男性性とメンタルヘルス」柏木恵子・高橋恵子（編）『日本の男性
の心理学—もう1つのジェンダー問題—』，有斐閣，pp.24-28. 2008.
- 名嶋義直 「学習者の考える『ノダの意味・機能』に関する覚え書き—母国で受
けた教授内容との関係から—」『日本語教育論集』第14号，姫路獨協大学大
学院言語教育研究科日本語教育コース，pp.17-24，2005.
- 名嶋義直 「日本事情科目と日本語科目との有機的連携—双方における学習効果
を高めるために—」『東北大学大学教育センター年報』12，東北大学大学教
育研究センター，pp.117-129，2005.
- 名嶋義直 「推意に関する一考察—ノダ研究の過程から—」『文化』第69巻1・2
号，東北大学文学会，pp.94-111，2005.
- 名嶋義直 「異文化理解リテラシー育成に向けて—日本事情授業における取り組
みから—」『日本語教育』129，日本語教育学会，pp.41-49. 2006.
- 名嶋義直 「ノダの文法的意味の記述に向けた試み（その1）-果たしてノダは『説
明のモダリティ』か-」，『文化』第71巻1・2号，東北大学文学会，2007.
- 名嶋義直 「母語話者による母語話者ロールプレイング発話の評価からわかるこ
と—口頭コミュニケーション文法へのアプローチ—」，水谷修（監），小
林ミナ・日比谷純子（編），『日本語教育の過去・現在・未来 第5巻 文法』，
凡人社，pp. 98-124. 2009.
- 名嶋義直 「会話分析授業において受講生はどう学んだか—母語話者会話と学習
者会話との対照を通して—」，2009年上海日本学研究国際フォーラム記念論
文集，印刷中.
- 田中重人 「Web 入力システムの開発」平成14～16年度科学研究費補助金基盤研
究 (B) 研究成果報告書『社会学文献情報の蓄積システムの構築のための試験
研究』，名古屋大学大学院環境学研究科，pp. 25-38, 2005.
- 田中重人 「ノルウェーとフィンランドの男女平等関連施策」『北欧視察調査報
告書—仕事と家庭生活の両立支援について—』，せんだい男女共同参画財団，

- pp. 45-55, 2005.
- 田中重人 「サンプリングとデータの基本特性」 『第2回 家族についての全国調査 (NFRJ03) 第一次報告書』, 日本家族社会学会全国家族調査委員会, pp. 23-34, 2005.
- 田中重人 「性別格差と平等政策—階層論の枠組による体系的批判—」 嵩さやか・田中重人 (編) 『ジェンダー法・政策研究叢書 9—雇用・社会保障とジェンダー—』 東北大学出版会, pp. 217-238, 2007.
- 田中重人 「ライフスタイル中立的な平等政策へ—両立政策は正当化できるか—」 辻村みよ子・河上正二・水野紀子 (編) 『ジェンダー法・政策研究叢書 12—男女共同参画推進のための政策提言—』 東北大学出版会, pp. 283-301, 2008.
- TANAKA Sigeto “Career, Family, and Economic Risks: A Quantitative Analysis of Gender Gap in Post-divorce Life”, 『2005年SSM調査シリーズ 9—ライフコース・ライフスタイルから見た社会階層—』 2005年SSM調査研究会, pp. 21-33, 2008.
- 田中重人 「データ・リダクションのための汎用モジュールの開発—効率のよい職歴分析のために—」 『2005年SSM調査シリーズ 12—社会調査における測定と分析をめぐる諸問題—』 2005年SSM調査研究会, pp. 21-45, 2008.
- 田中重人 「親と死別したとき: 子ども役割の喪失」 藤見純子／西野理子編『現代日本人の家族: NFRJ から見たその姿』 有斐閣, pp. 93-102, 2009.
- 呉 正培 「日本人イメージの形成に対する直接経験の影響—韓国人大学生の場合—」 『言語科学論集』 12号, 東北大学大学院文学研究科言語科学専攻, pp. 61-72, 2008.
- 呉 正培・金 鉉哲 「韓国語学習者の韓国語イメージにみられる特徴—東北大学における学習者と非学習者の比較—」 (共同) 『東北大学高等教育推進センター紀要』 4号, pp. 57-68, 2009.
- 栗原通世 「中国語北方方言を母語とする日本語学習者による母音長の制御と長短の知覚」 『音声研究』 10(2), pp.77-85, 2006.
- KURIHARA, Michiyo., “The Identification of Japanese Long and Short Vowels by Mandarin Chinese Speakers” In W.M. Chan, K.N. Chin, P. Martin-Lau, M. Nagami, T. Suthiwan & M. Suzuki (eds.) CLaSIC 2006: Processes and Process-Oriented in Foreign Language Teaching and Learning. The 2nd CLS International Conference, CD-ROM. National University of Singapore, pp.451-460, 2006.
- 栗原通世・助川泰彦 「フィンランド人・韓国人・中国人日本語学習者による母

音長短の範疇知覚化」(共同)『東北大学大学院文学研究科研究年報』57,
東北大学大学院文学研究科, P.25-P.43, 2008.

1-2 著書・編著

藤原雅憲・西村よしみ・堀恵子・内山潤・才田いずみ 『大学における日本語教育の構築と展開:大坪一夫教授古稀記念論文集』(共編著) ひつじ書房, 2007.

鈴木淳子 『調査的面接の技法』(第2版)(単著)ナカニシヤ出版, 2005.

鈴木淳子・柏木恵子 『ジェンダーの心理学:心と行動への新しい視座 心理学の世界 専門編5』(共著)培風館, 2006.

Atsuko Suzuki (ed.). *Gender and career in Japan*. Melbourne, Victoria: Trans Pacific Press, 2007. (編著)

名嶋義直 『日本語研究叢書 19 ノダの意味・機能—関連性理論の観点から—』(単著), くろしお出版, 2007.

嵩さやか・田中重人 『ジェンダー法・政策研究叢書 9—雇用・社会保障とジェンダー—』(共編著), 東北大学出版会, 2007.

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

才田いずみ 「コンピュータ利用の活動」「口頭発表」「論文」「ポスター発表」「教材」「教材シラバス」「主教材・副教材・補助教材」『新版日本語教育事典』, 大修館書店, 2005.

才田いずみ 「学習者の日本語が教えてくれること」原研二・鈴木岩弓・金子義明・沼崎一郎(編)『人文社会科学の世紀』改訂版, 東北大学出版会, pp. 81-88, 2006.

才田いずみ 「(4) 教師と教育現場:特別寄稿 第7回日本語教育国際研究大会報告」『日本語教育』139, 日本語教育学会, pp. 80-84, 2008.

鈴木淳子・佐藤嘉倫 『人文科学ハンドブックースキルと作法—』(共著)東北大学出版会, pp.87-93, 2005.

鈴木淳子 「ジェンダー」岡村一成(編)『応用心理学事典』, 丸善, pp.192-193, 2007.

鈴木淳子 「面接法」日本社会心理学会(編)『社会心理学事典』, 丸善, 2009.

名嶋義直 『人文科学ハンドブックースキルと作法—』(共著), 東北大学出版会, pp.127-130, 2005.

名嶋義直 「書評論文 庵功雄 著『日本語におけるテキストの結束性の研究』」,

『日本語の研究』第5巻2号, 日本語学会, pp. 67-72. 2009.

TANAKA Sigeto (translated by Stacey Jehlik)

“Housekeepers' Capacity as a Supply of Labor” (翻訳), *Japanese Economy*, 34(4),

M. E. Sharpe, pp. 57-75, 2008.

1-4 口頭発表

(1) 国際学会

Izumi SAITA "Web-based role-play practice package" (単独), JSAA (オーストラリア日本研究学会) アデレード大学, 2005年7月5日.

Yoshiro OGAWARA, Izumi SAITA, Akiko TAKAHASHI, Yasushi INOUCHI, Hiroshi HORII, Yoshiyuki KAWAZOE 「日本語ができるSE養成を目指す遠隔日本語学習コースウェア」 (共同), JSAA (オーストラリア日本研究学会), アデレード大学, 2005年7月5日.

Izumi SAITA 基調講演 “Does Multimedia really work well?”, Multimedia Adventures in Language Learning, Sunway Lagoon Resort Hotel, Institute of Modern Languages and Communication, Multimedia University, Malaysia. 2006年8月22日.

Izumi SAITA 招待講演 “E-Learning and the Future Promotion of Japanese Language Learning”, Multimedia Adventures in Language Learning, Sunway Lagoon Resort Hotel, Malaysia. Institute of Modern Languages and Communication, Multimedia University, Malaysia. 2006年8月22日.

Akiko TAKAHASHI, Yasushi INOUCHI, Yoshiro OGAWARA and Izumi SAITA “Interactive e-Learning Courseware for System Engineers.” (共同), Multimedia Adventures in Language Learning, Sunway Lagoon Resort Hotel, Institute of Modern Languages and Communication, Multimedia University, Malaysia. 2006年8月22日.

Izumi SAITA 基調講演 “Recent Trends in Material Development for Japanese Language Learning.”, Second International Conference in Language Learning, Grand Plaza ParkRoyal Hotel, Penang, Malaysia, Centre for Language and Translation, Universiti, Sains Malaysia. 2006年11月25日.

才田いずみ シンポジスト 「日本語 e-Learning コンテンツ開発の考え方」国際シンポジウム: これからの CALL—CALLing the Future, シンポジウム2「CALLの多様性」, 主催: 神戸大学国際コミュニケーションセンター, 2006年12

月 3 日.

Yasushi INOBUCHI, Akiko TAKAHASHI, Yoshiro OGAWARA and Izumi SAITA

‘Evaluation on Interactive e-Learning Japanese Courseware for System Engineers.’

(共同), CLaSIC2006. National University of Singapore. 2006 年 12 月 7 日.

才田いずみ 招待発表 「ウェブ利用の e-Learning 教材とその活用促進策」第 15 回オーストラリア日本研究学会大会, オーストラリア国立大学, 2007 年 7 月 2 日.

才田いずみ・井口寧・高橋亜紀子・小河原義朗 「遠隔日本語学習とテレビ会議」

(共同), CASTEL-J in Hawaii 2007, Kapiolani Community College. 2007 年 8

月 3 日.

才田いずみ 招待発表 「日本語教育実習生についての実習生の受けとめ」日本語教育学世界大会 2008, 釜山外国語大学, 2008 年 7 月 12 日.

SAITA, Izumi, Takahasi, A., Ogawara, Y. and Inoguchi, Y. And Kurihara, M.

“Multimedia and Learner Awareness-raising in regard to Japanese Prosody” (共同).

CLaSIC2008 at National University of Singapore. 2008 年 12 月 5 日

名嶋義直 「母語話者による母語話者ロールプレイング発話の評価からわかること」(単独), 2008 年日本語教育国際研究大会 ICJLE2008, 釜山外国語大学 (韓国釜山), 2008 年 7 月 11 日.

小林ミナ・名嶋義直・品田潤子・宮崎聡子 「コミュニケーションのための『話す』」(共同), 2008 年日本語教育国際研究大会 ICJLE2008, 釜山外国語大学 (韓国釜山), 2008 年 7 月 13 日.

名嶋義直 「会話分析授業において受講生はどう学んだかー 母語話者会話と学習者会話との対照を通してー」, 2009 年上海日本学研究国際フォーラム, 上海外国語大学/中国, 2009 年 6 月 13 日.

TANAKA Sigeto “The Scope of Altruism: Patriarchy and the Modern Family under Japanese Law and Norms.”(単独), Annual Conference, International Association for Feminist Economics, University of Sydney, Sydney, 2006 年 7 月 8 日

TANAKA Sigeto “Against Intra-Household Exploitation: Philosophy and Policy for Equity within the Family in Japanese Context.”(単独), The 4th Annual East Asian Social Policy Research Network (EASP) International Conference, 東京大学, 2007 年 10 月 20 日.

栗原通世・助川泰彦 「母語別に見た日本語学習者による母音長の範疇知覚」(共同), Fifth International Conference on Practical Linguistics of Japanese (第 5 回日

本語実用言語学国際学会) , San Francisco State University, U.S.A, 2006年3月4日.

KURIHARA, Michiyo. "The Identification of Japanese Long and Short Vowels by Mandarin Chinese Speakers." (単独) , The Second CLS International Conference, National University of Singapore, Singapore, 2006年12月8日.

(2) 国内学会

才田いずみ・栗原通世・徐智允・川添良幸・高橋亜紀子・小河原義朗・内山潤・井口寧 「ウェブ版ロールプレイ練習のデザインに関する評価」 (共同) , 第25回日本語教育方法研究会, 徳島大学, 2005年9月17日.

高橋亜紀子・小河原義朗・才田いずみ・井口寧・堀井洋・川添良幸 「システムエンジニア向け日本語学習コースウェアの開発」 (共同) , 第25回日本語教育方法研究会, 徳島大学, 2005年9月17日.

加藤由香里・才田いずみ 「上級日本語読解コンテンツの開発—専門教育との連携を志向するeラーニング」 (共同) , 日本教育工学会第23回全国大会, 早稲田大学, 2007年9月24日.

高橋亜紀子・才田いずみ・小河原義朗・井口寧 「システムエンジニアを対象とした遠隔日本語学習コースウェアの開発」 (共同) 日本教育工学会研究会. いわき明星大学, 2008年12月20日.

鈴木淳子 21世紀COEプログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」 マイノリティ研究部門 特別ワークショップオーガナイザー. "Is the Marriage Possible? : Empirical Studies on Gender, Family, and Work in Sociology and Social Psychology." (ジェンダー・家族・職業—社会学と社会心理学のコラボレーションは可能か(2)—) , 2005年9月16日.

鈴木淳子 「心理学におけるジェンダー研究の今後の課題」 (単独) , 大学院イニシアティブ講演会にて講演, 名古屋大学大学院教育発達科学研究科, 2006年3月10日.

鈴木淳子 産業・組織心理学会部門別研究会(人事部門) 「働く人々とワーク・ライフ・バランス」 コメンテーター, 2007年7月21日.

田中重人 「第2回全国家族調査(NFRJ03)の結果から」 (単独) , 第15回大会, 日本家族社会学会, 島根大学, 2005年9月10日.

栗原通世 「日本語学習者による母音長の知覚に関する基礎的研究—フィンランド語・中国語・韓国語話者を対象として—」 (単独) , 第28回日本語教育方

法研究会，早稲田大学，2007年3月17日。

今野晃嗣・日高聡太・丸山俊・柴田寛・栗原通世・田中章浩・藤本茉莉・小泉政利・行場次朗・萩原裕子「母語と非母語の物語聴取時における脳活動のNIRSによる測定—成人と幼児の比較—」（共同），第4回子ども学会議，慶應義塾大学，2007年9月15-16日。

日高聡太・柴田寛・栗原通世・田中章浩・藤本茉莉・小泉政利・行場次朗・萩原裕子「幼児と成人を対象とした母語・非母語による物語聴取時におけるNIRSを用いた脳活動測定」（共同），日本心理学会第71回大会，東洋大学，2007年9月18日。

(3) 研究会

才田いずみ シンポジウム司会「シンポジウム：大養協のこれまでの歩みと将来の展望」，大学日本語教員養成課程研究協議会第30回大会，熊本県立大学，2006年10月6日

才田いずみ コメンテーター 独立行政法人国立国語研究所公開研究発表会「『生活日本語』の学習をめぐる—文化・言語の違いを超えるために—」，2008年1月26日。

才田いずみ コメンテーター 第21回神戸大学留学生センター・コロキウム「短期研修プログラムの意義と可能性を考える—大学の国際戦略と日本語教育の観点から—」，2008年2月9日。

才田いずみ シンポジウムパネリスト「『新たな教育内容』の再評価」，大学日本語教員養成協議会シンポジウム「多文化共生社会における日本語教員養成課程の役割と可能性」，首都大学東京，2008年5月23日。

名嶋義直 「ノダは『説明のモダリティ』か」（単独），第3回名古屋大学日本語教育研究集会，名古屋大学，2005年8月8日。

名嶋義直 「会話授業における2つの試み—『ポートフォリオ評価』と『ほとんど話さない会話授業』—」（単独），2005年度沖縄県大学等日本語教育研究会第3回研究例会，琉球大学，2006年3月9日。

名嶋義直 「終助詞ヨとネに関する語用論的考察—手続きの意味の観点から—」（単独），第4回日本語教育研究集会，名古屋大学，2006年8月7日。

名嶋義直 「学習者の日本語に対する母語話者の評価について—日本語教育関係を学ぶ大学生の場合—」（単独），沖縄県大学等日本語教育研究会例会2007年度第3回研究例会，放送大学沖縄学習センター，2007年3月8日。

名嶋義直 「自然な日本語を教えるために教師は何に着目すればいいか—日本語教育関係を学ぶ大学生による評価を手掛かりに—」 (単独), 日本語教育学会 平成 19 年度日本語教育学会第 3 回研究集会, 岐阜大学, 2007 年 6 月 18 日.

名嶋義直 「学習者の発話には何が欠けているか—ロールプレイ発話の会話分析—」 (単独), 第 5 回日本語教育研究集会, 名古屋大学, 2007 年 8 月 6 日.

名嶋義直 「日本語母語話者による日本語母語話者会話の評価からわかること」 (単独), 沖縄県大学等日本語教育研究会例会 2007 年度第 3 回研究例会, 放送大学沖縄学習センター, 2008 年 3 月 1 日.

名嶋義直 「母語話者による母語話者ロールプレイング発話の評価からわかること—『意味』と『流れ』に関する肯定的コメントを中心に—」 (単独), 第 6 回日本語教育研究集会, 名古屋大学, 2008 年 8 月 4 日.

名嶋義直 招待発表「ノダの意味・機能再考—その文法論的意味と語用論的意味—」, 単独, 第 15 回中日理論言語学研究会, 同志社大学 大阪サテライト/大阪市, 2008 年 10 月 5 日

名嶋義直 「学習者の多様化に対応する会話授業・作文授業の可能性—ジャーナルの横断的分析から—」, 単独, 2008 年度沖縄県日本語教育研究会例会第 3 回例会, 放送大学沖縄学習センター/西原町, 2009 年 3 月 7 日.

名嶋義直 「シラバスが生み出す誤用」, 単独, 第 7 回日本語教育研究会, 名古屋大学/名古屋市, 2009 年 8 月 3 日.

TANAKA Sigeto “Family Creating Inequality: A Quantitative Analysis of Gender Gap in Post-Divorce Life”, 単独, GCOE 国際セミナー「多文化共生社会のジェンダー平等: グローバリゼーション下のジェンダー・多様性・共生」(東北大学法学研究科グローバル COE プログラム) 2009 年 8 月 4 日.

2 教員の受賞歴 (2005~2009 年度)

なし

IV 教員による競争的資金獲得 (2005 年度~2009 年度)

(1) 科学研究費補助金

才田いずみ (研究代表者) : 基盤研究(C)(2)2004 年度~2005 年度 課題番号 : 16520310「多元メディアによる遠隔日本語学習支援システムの研究」3,500,000 円 (2 年間総額)

鈴木淳子（研究代表者）：特別研究員奨励費 2004 年度～2005 年度 課題番号：
16004002-00「職業的階層の上昇を目指す移民女性：日本とアメリカ合衆国に
滞在するブラジル女性の比較研究」2,290,000 円（2 年間総額）

田中重人（研究代表者）：若手研究 (B) 2005 年度～2007 年度 課題番号：17710205
「カップル単位意思決定の下でのジェンダー平等」600,000 円（2007 年度分）

才田いずみ（研究代表者）：基盤研究(B)2006 年度～2008 年度 課題番号：
18320079：「社会的・文化的要素を意識した多元・多層日本語学習支援シス
テムの研究」15,300,000 円（3 年間総額）

(2) その他

才田いずみ（取組実施担当プログラム責任者）2005 年度 魅力ある大学院教育イ
ニシアティブ「言語研究者・言語教育者養成プログラム」17,437,000 円（文
部科学省）4,000,000 円（東北大学総長裁量経費）

才田いずみ（取組実施担当プログラム責任者）2006 年度 魅力ある大学院教育イ
ニシアティブ「言語研究者・言語教育者養成プログラム」31,579,000 円（文
部科学省）4,000,000 円（東北大学総長裁量経費），4,248,745 円（研究科長裁
量経費）

田中重人 2005 年 男女共同参画推進助成金（東北大学男女共同参画奨励賞「沢
柳賞」受賞賞金）400,000 円

V 教員による社会貢献（2005 年度～2009 年度）

(1) 政府・地方公共団体関係機関等の委員

才田いずみ 文部科学省独立行政法人評価委員会臨時委員 2004 年度～2009 年
度.

才田いずみ 独立行政法人日本学術振興会「魅力ある大学院教育」イニシアティ
ブ委員会分野別審査部会書面審査委員 2006 年度

才田いずみ 独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会専門委員 2006 年度

才田いずみ 独立行政法人日本学術振興会 大学院教育改革支援プログラム委員
会分野別審査部会（書面審査委員）2007 年度～2008 年度

才田いずみ 独立行政法人日本学術振興会 組織的な大学院教育改革推進プロ
グラム委員会分野別審査部会委員（書面審査委員）2009 年度

才田いずみ 独立行政法人国立国語研究所 教師教育研究委員会委員 2004 年度～
2005 年度

才田いずみ 日本学術会議連携会員 2006年8月～現在
才田いずみ 財団法人日本語教育振興協会 審査委員会専門委員 2004年度～
現在
才田いずみ 財団法人東北大学研究教育振興財団 財務委員会委員 2004年度～
現在
才田いずみ 財団法人仙台国際交流協会評議員 2004年度～2008年5月
才田いずみ 財団法人仙台国際交流協会「市民国際交流事業補助金審査会」審査
委員 2003年度～2006年度
才田いずみ 財団法人仙台国際交流協会日本語ボランティア育成講座講師 2004
年度～2009年度

(2) 公開講座等の講師

才田いずみ 講義 「授業観察とそのデータを生かすには」 (独) 国立国語研所
上級研修・講師, 2005年6月11日
Izumi SAITA 講演 “Learning Japanese Efficiently.” at TMA Solutions, Ho Chi Minh
City, Vietnam. 2006年3月21日
才田いずみ 公開講義 「日本語はちゃんと使われているだろうか」平成18年度
東北大学文学部オープンキャンパス 2006年7月28日
才田いずみ 講演「日本における日本語教育の現状」 中国 西安外国語学院
2006年12月25日
才田いずみ 講演「日本語上達への心構え」 中国 西安外国語学院日本語学部
2006年12月28日
才田いずみ 研修会講師「個人対応とグループ学習：柔軟で役に立つ学習支援を考
えよう」にほんごの会くれよん主催, 目黒区国際交流協会助成事業 2009年
度日本語ボランティアのための3回講座(第1回) 2009年7月30日
鈴木淳子 講演会 「調停場面におけるノンバーバル・コミュニケーション・ス
キル ―説得力ある面接者をめざして―」 仙台家庭裁判所 2007年1月24
日
鈴木淳子 放送大学 「社会階層と不平等」第12回講義：キャリア・ジェンダ
ーと不平等(講師) 2007年9月4日(収録)
名嶋義直 特別授業 福島県立磐城高等学校 2007年10月23日
名嶋義直 研修会 凡人社日本語サロン研修会「教師力♡文法力」(全体討論司
会進行, コメンテーター), 東京国際大学早稲田サテライト, 2008年8月17

日

名嶋義直 公開セミナー講師 「外国人の日本語から日本語を考える」, 東北大学大学院文学研究科 市民のための公開セミナー「第8期有備館講座」, 2009年6月20日.

名嶋義直 公開講義 「日本語の会話について考える」, 東北大学オープンキャンパス, 2009年7月30日.

名嶋義直 シンポジウム講師 「大学院における非母語話者日本語教師養成の実際- 東北大学の場合-」, 大学日本語教員養成課程研究協議会第36回大会シンポジウム, 九州大学, 2009年10月9日.

名嶋義直 ワークショップ講師 「会話教育再考」, 東京外国語大学留学生日本語教育センター, 2009年10月29日.

名嶋義直 シンポジウム講師 「日本語教育から見た言語学概論」, 日本言語学会2009年秋季大会(第139回大会), 神戸大学, 2009年11月29日

名嶋義直 ワークショップ講師 「会話教育を考える」, 国際都市仙台を支える市民の会(ICAS)主催「日本語ボランティア教師研修」, 2010年3月13日.

(3) NPO・NGO 法人・民間企業との協力関係等

才田いずみ NPO 法人日本語 e-Learning センター 理事長 2005年度～現在

VI 教員による学会役員等の引き受け状況 (2005年度～2009年度)

才田いずみ

日本語教育方法研究会運営委員 2003年度～2006年度

日本語教育方法研究会会長 2006年4月～現在

日本語教育学会評議員 2003年6月～2005年5月末

日本語教育学会常任理事 2005年6月～現在

日本語教育学会大会委員(副委員長) 2005年7月～2009年6月末

鈴木淳子

東北大学 21世紀 COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」事業推進担当者 2003年度～2007年度

東北大学 21世紀 COE プログラム 運営幹事 2006年度～2007年度

日本社会心理学会「社会心理学研究」編集委員 2005年度～2008年度

日本社会心理学会 学会賞選考委員 2006年6月～9月

日本社会心理学会 学会賞選考委員・選考小委員会(出版賞) 委員 2007年

6月～9月

産業・組織心理学会 常任理事 2007年度～2008年度

産業・組織心理学会 「産業・組織心理学研究」編集委員 2007年度～2008年度

日本理論心理学会第53回 大会委員長 2007年11月17～18日

東北大学グローバルCOEプログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界の展開」運営幹事・マイノリティ部門長 2008年4月～2009年3月

名嶋義直

日本語教育方法研究会事務局長 2006年度～現在

日本語文法学会 学会誌委員 2007年度～現在

名古屋大学日本語教育研究集会 実行委員会 2003年度～現在

小出記念日本語教育研究会 研究委員 2008年度～現在

日本語教育学会 査読協力者 2008年度～現在

日本語用論学会 査読協力者 2009年度

2009年上海日本学研究国際フォーラム 分科会座長 2009年6月13日

田中重人

日本家族社会学会全国家族調査委員会委員 2004年～現在

日本社会学会データベース委員会委員 2003年～現在

VII 教員の教育活動（2009年度）

（1）学内授業担当

1 大学院授業担当

才田いずみ

1学期 日本語教育論講読「第二言語習得研究と日本語教育」

2学期 日本語教育論研究演習Ⅱ「ウェブを利用した日本語学習デザイン」

通年 課題研究（専攻分野全教員と共同）

名嶋義直

1学期 日本語教育論実習Ⅰ「コースデザインの基礎」

2学期 日本語教育論実習Ⅱ「日本語コースの評価と改善」

1学期 日本語教育論特論Ⅱ「誤用から考える」

2学期 日本語教育論研究演習Ⅰ「記述文法の批判的検討」

通年 課題研究（専攻分野全教員と共同）

田中重人

- 2 学期 比較現代日本論講読Ⅰ 「現代日本論論文講読」
- 1 学期 比較現代日本論研究演習Ⅰ「統計分析入門」
- 1 学期 比較現代日本論研究演習Ⅱ「質問紙調査の理論と実践」
- 2 学期 比較現代日本論研究演習Ⅲ 「実践的統計分析法」
- 通年 課題研究（専攻分野全教員と共同）

2 学部授業担当

才田いずみ

- 3 セメスター 日本語教育学基礎講読「外国語学習と習得」
- 3 セメスター 日本語教育学概論「日本語と日本語教育」
- 4 セメスター 日本語教育学概論「日本語教育の基礎」
- 5 セメスター 日本語教育学演習「ウェブ上のリソースを活用した日本語学習」
- 5 セメスター 日本語教育学実習「日本語コース運営の基礎」
- 6 セメスター 日本語教育学実習「日本語コース運営の実際」

名嶋義直

クラスアドバイザー

- 1 セメスター 人文社会総論（分担）「会話分析」
- 4 セメスター 日本語教育学基礎講読「日本語を文法的に考えるための基礎を学ぶ」
- 5 セメスター 日本語教育学講読「日本語を文法的に考える」
- 5 セメスター 日本語教育学各論「誤用から考える」

田中重人

- 3 セメスター 現代日本論概論「現代日本における家族」
- 4 セメスター 現代日本論概論「現代日本における職業」
- 3 セメスター 現代日本論基礎講読「論文作成の基礎」
- 4 セメスター 現代日本論基礎講読「現代日本文化に関する論文講読」
- 5 セメスター 現代日本論演習「統計分析の基礎」
- 6 セメスター 現代日本論演習「質問紙法の基礎」
- 6 セメスター 現代日本論演習「応用統計分析」

3 共通科目・全学科目授業担当

才田いずみ

1 セメスター 全学教育科目 言語学「文と談話のしくみ」

(2) 他大学への出講 (2005 年度～2009 年度)

才田いずみ

宮城学院女子大学大学院・人文科学研究科 (通年) (2003～2009 年度)

桜美林大学大学院・国際学研究科 (集中講義) (2003～2008 年度)

桜美林大学大学院・言語教育研究科 (集中講義) 2009 年度

岩手大学・教育学部 (集中講義) (2003～2009 年度)

名嶋義直

金城学院大学 (集中講義) (2006 年度～2008 年度)

金城学院大学大学院 (集中講義) (2009 年度)

仙台白百合女子大学 (通年) (2008 年度～2009 年度)

田中重人

東北学院大学・教養学部 (通年) (2009 年度)

呉 正培

宮城教育大学 (通年) (2008 年度～2009 年度)

栗原通世

宮城教育大学 (通年) (2004 年度～2007 年度)